

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	83人	算数	83人	理科	83人
第5学年	国語	104人	算数	104人	理科	104人

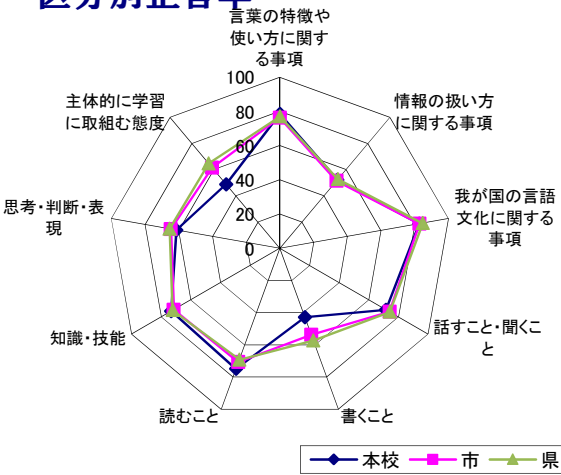
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷南小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	78.6	76.4	77.0
	情報の扱い方にに関する事項	52.3	51.5	52.7
	我が国の言語文化にに関する事項	82.7	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	71.6	74.1	74.2
	書くこと	42.8	53.7	57.2
観点	読むこと	74.9	70.7	69.2
	知識・技能	73.3	71.6	72.3
	思考・判断・表現	61.4	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	48.9	61.6	64.7



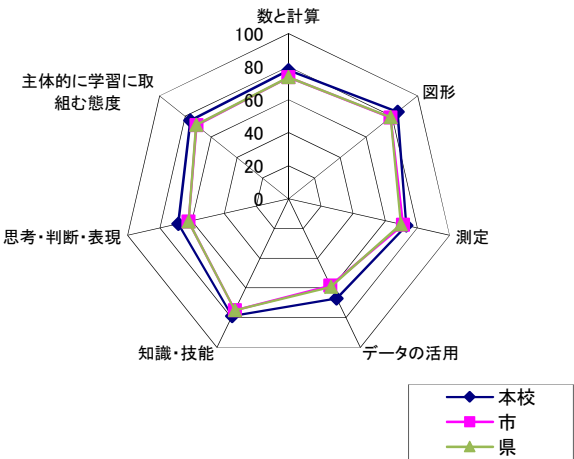
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	・領域の正答率は、78.6%と県、市の正答率と同程度である。 ○「第3学年に配当されている漢字を正しく読むことができる」3問の平均は91.4%で市の正答率を5.5ポイント上回っている。 ●「主語と述語について理解することができる」問題は65.4%で市の正答率を9.8ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・文章の構成を確認したり、主語・述語・修飾語を意識して文章を書いたりすることを繰り返し行い、定着を図る。 ・漢字練習と小テストを繰り返し行うとともに、朝の学習等を利用して既習漢字を使った文を書かせる等し定着を図る。
情報の扱い方にに関する事項	・領域の正答率は、52.3%と県、市の正答率と同程度である。 ○「国語辞典の使い方を理解することができる」問題は72.8%で市の正答率を2.3ポイント上回っている。 ●「情報と情報との関係について理解し、考えとそれを支える理由との関係を明確にして書くことができる」問題は30.9%で市の正答率を2.2ポイント下回っている。	・調べ学習の学習過程(「つかむ」「見つける」「まとめる」「つたえる」)を工夫し、積み重ねていくことで、自分の思いや考えを伝える力を身に付けられるようにする。
我が国の言語文化にに関する事項	・領域の正答率は、82.7%と県、市の正答率と同程度である。 ○「漢字のへんやつくりを理解することができる」問題は82.7%で市の正答率と同程度である。	・新出漢字を学習する際に、へんやつくり注目させながら指導していく。
話すこと・聞くこと	・領域の正答率は、71.6%と県、市の正答率と同程度である。 ○「話し手が伝えたいことの中心を捉えることができる」問題は74.1%で市の正答率を0.3ポイント上回っている。 ●「相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話すことができる」問題は64.2%で市の正答率を6.8ポイント下回っている。	・友達の発表や教師の話の内容を問い返すことで、大切なことを落とさずに聞く力を引き続き育てていく。 ・授業において意見を出す際には、自分の考えが相手に伝わるよう理由を挙げて発言させるようにする。
書くこと	・領域の正答率は、42.8%と県、市の正答率と比べてかなり低い。 ○「目的を意識し、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる」問題は35.8%で市の正答率を0.1ポイント上回っている。 ●「指定された長さで文章を書くことができる」問題は35.8%で市の正答率を20.0ポイント下回っている。 ●30.9%の児童が無回答である。	・段落構成、長さの指定、理由や事例などの条件が付いた作文の練習や授業の振り返りなどを積み重ねていく。 ・時間配分を考えた問題の取り組み方を指導していく。 ・考えを書く際にはひな形を提示し、定型文を基にして書く練習を行い、段階を追って文章を書く力を身に付けられるようにする。
読むこと	・領域の正答率は、74.9%と県、市の正答率と比べてやや高い。 ○「叙述を基に段落の内容を捉えることができる」問題は58.0%で市の正答率を10.3ポイント上回っている。 ●「場面の様子について、叙述を基に捉えることができる」問題は71.6%で市の正答率を3.7ポイント下回っている。	・文と文のつながりに着目して読み取ることができるように引き続き音読を行う。 ・文章に出てくる指示語がどこを表しているのかを適宜確認する。 ・読書活動を充実させ、場面の様子について叙述を基に捉える機会を増やす。

宇都宮市立豊郷南小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	77.8	73.5	73.6
	図形	84.4	79.0	79.1
	測定	73.1	71.1	69.8
	データの活用	67.1	58.4	59.2
観点	知識・技能	78.9	75.0	75.0
	思考・判断・表現	68.6	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	76.2	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

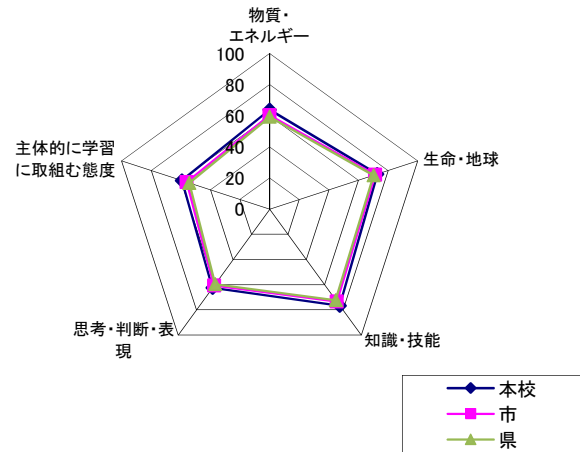
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・領域の正答率は、77.8%と県、市の正答率とほぼ同じである。 ○「3けた÷3けたを筆算で計算することができる」問題では、87.7%で市の正答率より9.8ポイント上回っている。 ○「2けた×2けたを筆算で計算することができる」問題では、81.5%で市の正答率より13.6ポイント上回っている。 ●「分数の数直線上での表し方を考えることができる」問題では、65.4%で、市の正答率を3.3ポイント下回っている。	・授業の中で積極的に具体物を活用して考えたり、実際にノートに数直線や図を描かせたりするなどして、数直線上での分数の表し方を身に付けられるようにする。
図形	・領域の正答率は、84.4%と県、市の正答率より高い。 ○「球の半径から、箱の辺の長さを求めることができる」問題では、80.2%で市の正答率を8.4ポイント上回っている。 ○「正三角形をコンパスを用いて作図することができる」問題では、95.1%で市の正答率を7.0ポイント上回っている。	・数学的活動を通して、円の直径と半径など、図形の性質や位置関係についての理解を深める指導を続けていく。 ・作図については、今後も定期的に復習を行い定着を図る。
測定	・領域の正答率は、73.1%と県・市の正答率とほぼ同じである。 ○「長さ・重さの単位の仕組みを考えることができる」問題では、65.4%で市の正答率より9.2ポイント上回っている。 ●「道のりと距離の意味を考えることができる」問題では、81.5%で市の正答率より5.9ポイント下回っている。	・数学的活動を通して、体感的に理解を深めていくとともに、実生活と関連付けて長さ・重さ、道のり・距離の定着を図っていく。
データの活用	・領域の正答率は、67.1%と県・市の正答率より高い。 ○「棒グラフを正しく読み取ることができる」問題では、69.1%市の正答率より11.7ポイント上回っている。 ○「複数の棒グラフを組み合わせたグラフを正しく読み取ることができる」問題では、66.7%で市の正答率より10.3ポイント上回っている。	・理由の説明に関しては、表現の仕方・説明の仕方をよく理解していないことが考えられるため、授業の中で友達と話し合って考えを深める活動を通して、表現の仕方を学ぶ場を意図的に設定する。

宇都宮市立豊郷南小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	63.8	60.2	59.2
	生命・地球	72.7	71.3	70.3
観点	知識・技能	76.6	73.4	72.3
	思考・判断・表現	62.4	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	59.3	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	・領域の正答率は、63.8%と県、市の正答率とほぼ同じである。 ○「電気を通すものと通さないものを理解することができる」問題は、94.0%で市の正答率を3.7ポイント上回っている。 ○「ものの形を変えても重さが変わらないことを考察することができる」問題は、74.7%で市の正答率を8.2ポイント上回っている。 ●「容量の大きい飲料の容器にプラスチックが使用されている理由を実験の結果から推測し、説明することができる」問題は、19.3%と正答率がかなり低い結果であった。	・磁石につくもの、つかないものの実験、糸電話の糸をつまむ実験などに関する問題の正答率は高かったので、体験的な学習は引き続き行っていく。 ・結果を基に考察する場面を増やし、論理的に考えを記述できる活動を行っていく。
生命・地球	・領域の正答率は、72.7%と県、市の正答率とほぼ同じである。 ○「野外の観察の仕方について理解することができる」問題は、91.6%で市の正答率を14.0ポイント上回っている。 ●「植物の育ち方を理解することができる」問題は、72.3%で市の正答率を8.7ポイント下回っている。 ●「太陽の位置から影の位置を推測できる」問題は、34.9%で市の正答率を8.2ポイント下回っている。	・実物のホウセンカやヒマワリの成長の様子などを観察する体験が不足していると考えられるので、できるだけ実物に触れることができる機会を増やしていく。 ・日時計を作成するなど、発展的な活動を行い、知識を活用する体験を増やす。

宇都宮市立豊郷南小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の授業の予習をしている」と肯定的に答えた児童の割合は65.5%、「家で学校の授業の復習をしている」と肯定的に答えた児童の割合は71.4%で市と比べて10ポイント以上高く、自主学習が定着してきたことが窺える。校内で共通理解を図って取り組んできた成果が表れていると考えられる。

○「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」と肯定的に答えた児童の割合は69.0%、「むずかしいことでも失敗をおそれないでしよう戦している」と肯定的に答えた児童の割合は86.9%で市と比べていずれも11ポイント高く、難しいことにも前向きに挑戦しようとする意欲があることが窺える。

○「次の教科は好きですか。国語・算数・理科・社会」では、すべての教科において肯定的割合が市を上回っている。特に、社会科は18.9ポイント上回っており、高い意欲があることが分かる。また、「先生は学習のことについてほめてくれる」と肯定的に答えた児童の割合は90.5%、「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」と肯定的に答えた児童の割合は82.1%と市と比べていずれも高く、児童は教員に対して肯定的にとらえるなど、好意的であると考えられる。今後も児童との信頼関係を築けるよう努めていきたい。

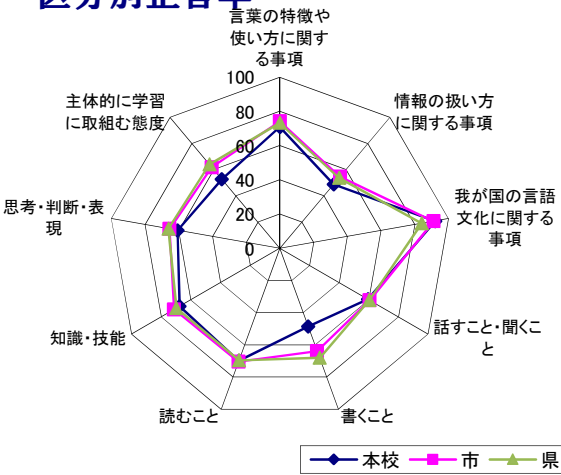
●「自分にはよいところがあると思う」では肯定的割合が70.2%で市と比べて10.9ポイント下回っている。「はい」と答えた割合は57.1%で市よりもやや高かったものの、「どちらかといえばいいえ」と答えた割合が20.2%と市と比べて9.3ポイント下回ったためこのような結果となった。一人一人のよさを児童同士で認め合える雰囲気づくりや、教員の励ましなどを様々な場面で設定し、自分に自信がもてるような働きかけをしていきたい。

●「国語の問題をとく時間は十分でしたか。」の肯定的割合は47.6%で、市と比べて16.5ポイント下回っている。慣れない形式の問題に対する戸惑いがあったことも考えられるので、様々な条件の下で文章を書く経験をさせたい。

宇都宮市立豊郷南小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	70.9	74.2	73.3
	情報の扱い方にに関する事項	48.9	54.7	53.8
	我が国の言語文化にに関する事項	92.2	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	59.4	60.6	60.4
	書くこと	48.5	63.8	68.0
	読むこと	69.9	70.4	69.6
観点	知識・技能	67.7	71.3	69.9
	思考・判断・表現	60.7	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	52.8	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

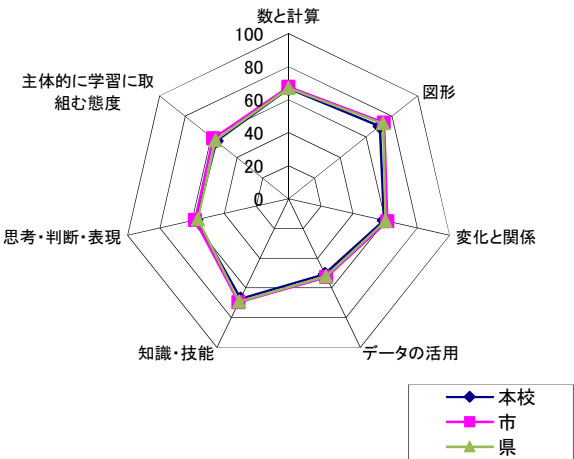
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	・領域の正答率は、70.9%と県、市の正答率とほぼ同じである。 ○「4年生に配当されている漢字を正しく読んだり書いたりすることができる」6問の平均は80.3%で市の正答率とほぼ同じであった。 ●「連用修飾語について理解している」問題は、34.0%で市の正答率を13.0ポイント下回っている。 ●「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことができる」問題は、45.6%で市の正答率を12.0ポイント下回っている。	・文章の中での語句の役割や、語句相互の関係に気を付けて、文がどのように組み立てられているかを復習する。 ・段落数を指定する条件を付けた文を書く練習を、普段から多く取り入れるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	・領域の正答率は、48.9%と県、市の正答率よりも低い。 ○「情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げながら話している」問題は、43.7%で市の正答率とほぼ同じであった。 ●「漢字辞典の使い方を理解している」問題は、67.0%で市の正答率を9.2ポイント下回っている。	・各教室に「漢字辞典」を配置し、必要なときに辞書が手元にあって、すぐに使えるような環境を作り、活用する機会を作る。
我が国の言語文化にに関する事項	・領域の正答率は、92.2%と県、市の正答率とほぼ同じである。 ○「ことわざの意味を知り、正しく使うことができる」問題は、92.2%で知識が定着しつつある。	・更なる定着のため、身の回りの出来事の中から、故事成語が当てはまる場面を探して、話し合ったり文にしたりする。
話すこと・聞くこと	・領域の正答率は、59.4%と県、市の正答率とほぼ同じである。 ○「司会の役割を果たしながら話し合い、意見の相違点に着目して、考えをまとめている」問題は、71.8%で市の正答率を5.5ポイント上回っている。 ●「話し手が伝えたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている」問題は、46.6%で市の正答率を7.4ポイント下回っている。	・授業中の話し合い活動など機会を増やし、必要なことを記録したり質問したりしながら、話し手の伝えたいことを捉えられるように指導する。
書くこと	・領域の正答率は、48.5%と市の正答率を15.3ポイント下回っている。 ●「指定された長さで文章を書いている」問題は、39.8%で市の正答率を23.3ポイント下回っている。 ●「自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして文章を書いている」問題は、48.5%で市の正答率を16.5ポイント下回っている。	・考えを書く際にはひな形を提示し、定型文を基にして練習を行い、段階を追って文章を書く力を身に付けられるようにする。 ・書く内容の中心を明確にして、内容のまとまりで段落をつくり文章を書く機会を意識的に設ける。
読むこと	・領域の正答率は、69.9%と県、市の正答率とほぼ同じである。 ○「叙述を基に、文章の内容を捉えている」問題は、84.5%で市の正答率を5.9ポイント上回っている。 ●「登場人物の気持ちの変化や情景について、場面の移り変わりと結び付け具体的に想像している」問題は、50.5%で市の正答率を6.6ポイント下回っている。	・様々な種類の物語文に触れられるように、読書活動を充実させる。

宇都宮市立豊郷南小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	66.7	67.8	67.0
	図形	70.6	73.9	73.1
	変化と関係	59.2	61.4	60.2
	データの活用	50.7	52.7	52.1
観点	知識・技能	67.2	69.7	69.2
	思考・判断・表現	57.4	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	56.0	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

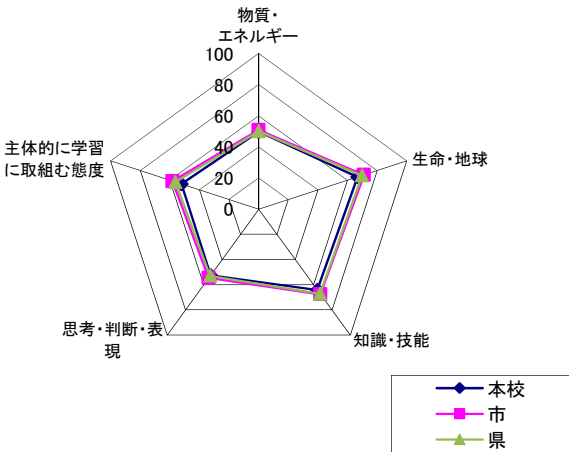
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・領域の正答率は、66.7%と県、市の正答率とほぼ同じである。 ○「小数÷整数の計算をすることができる」問題は、74.8%で市の正答率を6.7ポイント上回っている。 ●「帯分数＋帯分数の計算をすることができる」問題は、56.3%で市の正答率を8.4ポイント下回っている。	・基本的な計算力を高めるために、朝の学習等を利用し繰り返し指導していく。また、誤答の直しを確実にし、なぜ問題を間違えたかを自分なりの言葉で書き込むことで、間違いを理解し、同じミスを少なくしていくようにする。 ・計算の方法や考え方を文章で表現することで、理解を深め、学習の基礎・基本の定着を図るとともに、表現力を高められるよう継続的に指導していく。
図形	・領域の正答率は、70.6%と県や市の正答率とほぼ同じである。 ○「長方形の面積を求めることができる」問題、正答率が95.1%で学習が定着している。また、「面積について考える」問題は、全ての問題で市の正答率を上回っている。 ●「分度器を読む」問題は、67.0%で市の正答率を12.4ポイント下回っている。 ●「ひし形の作図をする」問題では、68.0%で市の正答率を12.1ポイント下回っている。	・3・4年生を通じて定規やコンパス、分度器を使用してきたが、今後も図形について定期的に作図等の問題に触れさせ、教具に慣れさせていくようにする。 ・分度器の読み方について再度確認し、反復練習を行う。また、文章問題など活用問題などで取り入れ、さらなる定着を図っていく。
変化と関係	・領域の正答率は、59.2%と県、市の正答率とほぼ同じである。 ○「簡単な割合を求めることができる」問題は、県や市の正答率をやや上回っている。 ●「数量の変わり方を式に表すことができる」問題は、29.1%で市の正答率を10.0ポイント下回っている。 ●「求めた割合を比較し、説明することができる」問題は、36.9%で市の正答率を5.6ポイント下回っている。	・5年生になると数直線を読み取り、実際にノートに記入する場面が増えてくる。こうした機会を有効に利用したい。問題を解く際には、意図的に数直線を書き、そこから数量の変わり方が理解できるように指導していく。 ・求めた割合を比較し、考察したことを説明したり書いたりする機会を増やしていく。
データの活用	・領域の正答率は、50.7%と県、市の正答率とほぼ同じである。 ●「折れ線グラフや表を読み取ることができる」問題は、71.8%で県や市の正答率をやや下回っている。 ●「折れ線グラフを読み取り、その理由を説明することができる」問題では、31.1%で正答率が低かった。	・理科や社会科等、算数の時間以外にも表やグラフを読み取る学習を取り入れていく。また、その際、読み取るための観点を整理し、考えたことを発表したり、記述式で答えたりする場をつくり、多面的な考え方を知る機会を設定していく。

宇都宮市立豊郷南小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	49.7	50.8	50.0
	生命・地球	66.8	71.1	69.8
観点	知識・技能	64.2	67.6	67.2
	思考・判断・表現	52.5	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	52.1	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	・領域の正答率は、49.7%と県、市の正答率とほぼ同じである。 ○「実験の結果をもとに、手作りの噴水の原理を推測することができる。」問題は、56.7%で市の正答率を6.1ポイント上回っている。 ●「乾電池を直列つなぎと並列つなぎにしたときの検流計の針の振れ方を推測することができる」問題は、37.5%で市の正答率を10.5ポイント下回っている。 ●「物のあたたまり方」の「予想が正しいとした場合に得られる結果を推測できる」問題は、41.3%で市の正答率を17.6ポイント下回っている。	・実験などで体験的に学んだ知識は身に付いていると窺える結果から、学んだ知識を身近な事象と関連付けて考えさせる機会を増やす。 ・自分の予想や仮説だけでなく、友達の予想や仮説をもとに実験の結果がどうなるか交流し合い、問題解決能力の育成を図る。 ・「予想や仮説を立てる」「実験計画を立てる」「自分の言葉で考えをまとめる」時間を大切にし、条件整理能力や論理的思考力の向上を図る。 ・導入時や問題作成時において、教師の発問などから事象の前後の変化に着目させ、理科の見方や考え方が養われるようにする。
生命・地球	・領域の正答率は、66.8%と県、市の正答率とほぼ同じである。 ○「天気のようにすと気温」の「屋外での気温の測り方を身に付けている」問題は、90.4%で着実に学習内容が定着しつつある。 ●「天気のようにすと気温」の「1日の気温の変化のグラフから晴れの日を判断し、その理由を説明することができる」問題では、45.2%で市の正答率を11.4ポイント下回っている。 ●「月と星」の「満月の1日の動き方を理解している」問題は、57.7%で市の正答率を9.6ポイント下回っている。	・観察などで体験的に学んだ知識は身に付いていると窺える結果から、学んだ知識を実際の自然現象と関連付けて考えさせる機会を増やす。 ・観察が難しい分野では、インターネット等のICTを積極的に活用しての知識の定着を図る。 ・自然現象への興味を高める導入を工夫したり、家庭の協力を得たりして自然現象への観察の機会を増やす。 ・導入時や問題作成時において、教師の発問などから事象の前後の変化に着目させ、理科の見方や考え方が養われるようにする。

宇都宮市立豊郷南小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の宿題はやりたくなる内容だ」で肯定的に答えた児童の割合は70.5%で、市と比べて10.2ポイント高く、宿題への意欲がかなり高いことが窺える。

○「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」「ぎ問や不思議に思うことは、わかるまで調べたい」等、学ぶ意欲に関する質問は、市の肯定的回答の割合より高いものが多く、意欲的に学習に取り組んでいることが窺える。

○「早ね、早起きを心がけている」で肯定的に答えた児童の割合は88.6%で、市と比べて11.3ポイント高く、規則正しい生活習慣が身に付いていることが窺える。

○「自分は勉強がよくできる方だと思う」で肯定的に答えた児童の割合は66.7%で、市と比べて10.6ポイント高く、自信をもって学習に取り組んでいることが窺える。

●「歴史上の人物やできごとをあつかっているテレビを見たり本を読んだりするのは好きだ」「自然やうちゅうなど、科学の内容をあつかっているテレビを見たり本を読んだりするのは好きだ」2問の平均で肯定的に答えた児童の割合は、市と比べて7.8ポイント低い。図書室の本や情報機器を活用する機会を増やすなどの取組が必要であると考えられる。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」と答えた児童の割合は50.5%で、市と比べて9.0ポイント低い。短い作文や学習のふりかえりを文章化する活動など、様々な形態や条件の下で文章を書く経験が必要であると考えられる。

宇都宮市立豊郷南小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
根拠を基に考え、伝え合い、深め合う算数科の指導に取り組む	・根拠を基に考える活動の充実を図る。 ・伝え合い、深め合う場面での数学的活動の充実を図る。	・質問紙の結果から、4・5年生ともに、「話し合いで自分の考えを広めている」「算数の解き方や考え方をノートに書いている」の肯定的回答の割合は、市や県の平均と比べると5～10ポイント高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
考えを説明したり、書いたりする問題の正答率が低く、また無答率が高くなっている。 ・国語（作文・記述式） ・算数（説明） ・理科（説明）	自分の考えを説明したり、書いたりする表現力の育成を目指す。	児童の「考える」「伝える（書く）」ことの意識と実際の定着度の差がみられるので、授業の中で、自分の考えを文章や図などで説明したり、友達同士で伝え合ったりするなど、表現する場を更に意図的に位置付ける。